



結進仕 団躍奉

鹿児島けんちく

発行所 鹿児島県建築協会 鹿児島市城山町2-13



霧島国分夏祭り

法令の遵守CSRと力強い 地場産業を目指して

（社）鹿児島県建築協会 会長 前田 正人



残暑お見舞い申し上げます。平成二十一年度通常総会も五月二十二日会員皆様のご理解により、会議案が全会一致で承認され新年度へ向けスタート致しました。昨年の総会において会長に選任され、大変厳しい経

が活発に活動されています。中でも県上で行うようオンラインでネット上で呼び掛けとインフラなどが多く模範に参加して下されば幸いです。上部団体であります全中

生しないように願っています。その他建築基準法入札制度改革、現場に開示される労働安全衛生規則に関する努力等いろいろの法令が改正されています。会員の皆様には厳しい社会情勢ではあります。法令を遵守し技術力向上に努め技術と経営に優れた企業を目指し発注者の期待に応えていきたいと思っております。そして安全安心な建物づくりや街づくりやボランティア活動を行う社会に貢献し地域に信頼される力強い地場産業を目

通常総会

平成二十一年度、第四十八回通常総会が五月二十二日、鹿児島市新照院町の城山観光ホテルで開催されました。池添母理事の司会により、開会、建築関係物故者追悼黙祷、前田会長の挨拶の後、会員の部五名、従業

員の部十六名の表彰があり、前田会長より表彰状と記念品が贈呈されました。表彰者は左のとおりです。なお、受賞者代表として深野木信氏（深野木組）より謝辞があり、その後、議長として川畑勇一郎氏（川畑建設）を選出したのち、議事に入りま

第一号議案 平成二十年年度事業報告及び決算承認の件 第二号議案 平成二十一年度入会金、会費徴収に関する件 第三号議案 平成二十一年度事業計画及び取支予算案承認の件 第四号議案 その他

平成二十一年度建築協会会長表彰受賞者

Table with columns: 氏名, 会社名, 所属. Lists award recipients like 秋丸 啓, 有島 正秀, etc.

地域経済の立て直し

（社）全国中小建設業協会 会長 岡本 弘



社団法人鹿児島県建築協会の皆様には、長年にお世話になって、私も全中建設並びに中小建設業の振興、発展に力強いご支援をいただいております。また前田会長はじめ役員の皆様には、私も全中建設の役員、評議員、委員会委員として、尽力をいたしました。心から感謝を申し上げます。さて、ご承知のとおり私ども中小建設業者の経営環境は、依然として好転の兆しが見えず、危機的な状況に置かれておりますことは、まことに残念でなりません。地域の雇用を確保し、地方産業の中核として経済や地域社会を支えてきた真面目な老舗中小建設業者が相次いで倒産等に追い込まれる、というような状態が依然として続いております。政府は、世界同時不況克服のための施策として過去最大規模の経済危機対策を講じ、また国土交通省においても、資金繰り支援事業や地域建設業経営強化融資制度等の諸施策に加え、最低制限価格及び低入札価格調査基準の引き上げを行いました。また六月二十二日官公需法による平成二十一年度の中小企業者向けの契約

平成21年度スローガン: 社会に奉仕する力強い 地場産業を目指して. Includes bullet points: 建築受注量の確保, 適正単価と経営の健全化の推進, etc.

「建築・営繕行政の推進に向けて」

鹿見島県土木建築技監 釜谷 智弘



建築協会の皆様には、平素より建築工事の安全かつ適正な施行を通して本県建築業の健全な発展のためにご尽力されるところに、本県の建築・営繕行政の推進に多大な貢献をいただいております。深く感謝を申し上げます。

さて、県有建築物の整備につきましては、安全性・機能性・快適性の確保等を基本としながら、良質な施設づくりに取り組んでいるとご承知のとおり、

り、今年度は、国の景気対策に伴う補正予算等により、昨年度より大幅な事業費の増加が見込まれており、耐震改修や環境対策等に積極的に取り組むこととしております。

しかしながら、本県におきましては、景気回復の兆しは未だみられず、建築業を取り巻く環境は依然として厳しいと言わざるを得ません。

このような中、県では、可能な限り分離・分別発注を行い受注機会の確保に努めるとともに、県内企業の活用や県産材の優先使用などに配慮しているところで、

また、入札の透明性・競争性の一層の向上、公共工事の品質確保等の観点から、入札制度の見直しを行い、今年度は一億円以上の工事

釜谷 智弘

事業の積極的な推進を

鹿見島市建設局建築部長 濱田 光隆



建築協会の皆様方におかれましては、日ごろから常に社会の要請に応え、建築技術の進歩・発展に寄与されるところに、業界の振興と協会の発展のために御まご努力を重ねておられますことに対し、深く敬意を表します。

建築関係におきましては、昨今の厳しい経済情勢の中、県内建築業者への早期発注拡大等に努めておりますが、更に国の公共投資臨時交付金を活用し、平成二十二年

度工事予定の武岡住宅宅四八号棟の全面的改善工事を今年度発注することとしたところで、

濱田 光隆

濱田 光隆

既存改修に活用していくこととしております。

さらには、安全・安心な市民生活を確保するために、耐震改修促進計画に基づき、建築物の耐震化促進に取り組み、特に、財政化率の低い木造住宅につきましては、昨年度より耐震診断、改修工事費の補助事業を行っております。

また、公共建築物における環境対策の取組みといったしまして、建築物におけるCO2排出削減等の環境対策について、鹿見島大学と共同で調査研究を行い、今後の公共建築物の新築及び

(協)鹿屋建友会さようなら

鹿見島県建築協会 副会長 小林 正義



梅雨の時期が終わり、夏真っ盛りのおうだるような暑さが毎日続いておりますが、皆様方におかれましては、お元気でお過ごしでしょうか。

さて、今年度は鹿屋の業界にとつて非常に大きな働きがありました。これは約四十五年の歴史を持つ我々の業界団体(協)鹿屋建友会の解散という大変な出来事でしたが、この解散に際しましては、先人、先輩方の残された功績を鑑み、果たして解散が最良の選択かとの迷いもございました。また、もちろんのこと協会

感謝

鹿見島県建築協会 副会長 横村 満昭



いをして送って来た。今回還暦という言葉を自分自身で体を持って体験するとは、今回事務で入院してベッド上で人生行路には大きな波が先人の言葉どおり来るのだと強く感じた。

振り返ってみると厄払いに当たった節目があり厄に遭うおそれが多いことかと思ましくもなりましたが、数えの六十一歳で迎える還暦に怪我をするとはまだ

さには晴天の霹靂であった。今まで経験した事の無い事故に遭い、しかも歩行中に後ろからはねられるとは還暦といわれれる年に巡り会うという偶然が不思議でならない。背後より来る恐怖は防ぎようがない、それが厄なのでしょう。更にとばされたにもかかわらず、不思議と頭だけは打つて無かった。

周りの人はみなさんにしてもらった還暦祝いのおかけだと言、私も厄をみなさんがからつてくれたからこの程度ですんだ

と感謝しております。本当にありがたいことと感謝し、今入院しているが待合所等で座って待つという閑色々な事が思い起こされるこのころです。ただ今強烈に感じていることは先人が残した慣習等は馬鹿にはできない。必ず意味のある慣習、風習であるとなつてくると感じます。年齢的な体力の衰えもあると思いたいが、先人に敬意を表したいと思っております。又先輩、友達にも感謝感謝

ぶらり旅

鹿見島県建築協会 副会長 中村 明人



今回首都圏を中心に五泊六日の旅行を計画し、五月三日最終便で東京へ出かけました。

羽田空港近くになると見え出す眼下の赤い光が旅情を誘いました。翌朝、連続テレビ小説「つばさ」の舞台である小さな小江戸、川越を訪ねました。家光、春日局にゆかりのある喜多院、江戸の面影をとどめる蔵造りの町並み、菓子屋横町、日本の音風景百選の時の鐘を見学しました。三日目は箱根湯本駅から定期観

目は普光寺御開帳を観る為山門に入る。と参道の石畳に参拝客が行列に並び、高僧と思われの方に数珠で一人一人の頭を撫ぜられておりました。私達も参拝客と同じ様に並んでみました。同様に触れ、本堂の中ではわずか五秒程度でしたが、一光三尊阿彌陀如来御開帳の姿を迎えることが出来ました。本堂に今回のぶらり旅は印象に残る旅になりました。

川内といえは、大綱引、大綱引といえは川内であり、川内大綱引保存会は、四百有余年の伝統を育む川内大綱引を現在まで守り継ぎ、これから先も伝統の継承を図りながら発展向上させていこうという団体であります。全国津々浦々に綱引行事はたくさ

存在しますが、川内の大綱引は長さ三六五、重さ五トンという他地域では類を見ない大きさ、そして最も特筆すべきは押し隊

「まちづくり」について思う

南薩支部会員 迫田 順一



日ごろ少し気になる「まちづくり」について、「まちづくり」は誰がするの、という問いに対して「みんなである」と言う答えは如何なるものでしょうか。

町の一角に竹む住宅を目標にした時に、その家は色んな生活が営まれている、目にすることが出来る、その建築物の外観と周辺の相殺などです。この事は当然なことですが、しかしこのよう

川内大綱引四百年祭

北薩支部会員 橋口 知章



川内大綱引は平成四年に保存会が設立され、平成十一年には地元薩摩川内市の文化財の指定を受け、また平成十八年には鹿見島県の無形民俗文化財の指定もいただいております。このことは保存会をはじめ関係の方々にとっては、かなり知れたい喜びがありました。川内大綱引四百年祭を行い、韓国からも昌原郡綱引保存会の訪問団の来訪を受けました。このとき

より韓国の皆様とも親引交流が始まり、今現在も交流を続けております。他にも、幼稚園・小中学校、中学校、高校と親引を通じて青少年の育成にも力を尽くしております。またこの大綱は毎年新たに盛り上げるわけですが、建築協会会員各社の皆様に早朝から網羅りに協力をいただいております。感謝申し上げます。

ベントを考えております。九月二十一日が前夜祭、二十二日が本綱引であります。会員各社の皆様、九月はぜひ薩摩川内へお越しください。来てよかった。見てよかった。引いてよかった。という日本一の川内大綱引のいっそうの

大綱引を体感していただければ幸いです。保存会会員の一人として、日本一の川内大綱引のいっそうの皆様方のご支援ご協力を

お願ひ申し上げます。

皆既日食

種子島支部会員 日高 政浩



私たちが家族（東京からも見学にきています）は種子島の最南端に近い前之浜海岸に場所をとり時々雲の切れ間から太陽と月が重なるようにする三日月の様な感じが日食グラスではなく肉眼でしっかりとみえました。ちよと太陽と月が重なったところ今まで消えていた街路灯が一斉に点灯し、近くには見学者から、ありがとう、というかけ声と拍手が湧き起こりました。その瞬間は今から何かが起こりそうなくわくわくした気持ちと何となくいえない不思議な感動をおぼえました。ほんの数の分でしたがそこにいた何千人もの人が一つのものを見つめて一喜一憂し感動を与えてくれました。感謝です。

その日の昼からは天気は持ち直し次の日も天候は良く本日に日食のあつた午前中だけが天候が悪く地元にいるためにもかくこの日のために遠くから種子島に乗り込んできた人はがっかりだったと思います。が人生そんなものでなかなか思ったとおりにはいかないものですよね？

ブルーベリーの魅力

始良伊佐副支部長 村中 義秀



ブルーベリーが注目されて久しくなりますが、当園は平成元年に植え付けて今年二十一年目を迎えました。当時はまだブルーベリーは馴染みのない時代でした。ブルーベリーに魅力を感じたのはまず無農薬栽培で出来ること、もう一点はブルーベリーには眼精疲労や老化予防に効果があるアントシアニンが豊富に含まれていることです。

「おがたまの木」二玉のモチーフ

曾於支部会員 谷口 伸一郎



時間がかれた週末、小郡人吉までよく日帰り観光に出かけます。目的は温泉、うなぎの上村、観光です。人吉駅のすぐ近く、昨年平成二十年六月九日九州内では初となる国宝に指定された青井阿蘇神社があります。国宝指定を受けたのは本殿、殿、幣殿、拝殿、樓門の



建造物五棟等です。急勾配のかやぶき屋根をはじめ、随所に桃山様式をとり入れた多彩な装飾や色彩、九州地方にみられる装飾の彫刻が施されているのが特徴です。今回はその建物ではなく、境内入り口横にあるおがたまの木について書きます。招き木と書いて「おがたまのき」と読みます。天に向かっています。すくすく枝を伸ばすことから神霊を招く木、即ち神の依り代（よりしろ）とされどきました。玉串など現在では神事に用

毎日暑い日が続いておりますが皆様元気ですか？今年には四十六年ぶりの皆既日食が種子島南部地区でも観測できるとのことで暑い中にも楽しんで話題が提供されております。当日は世紀の天体ショーのため会社も休みとし日食グラスも各自一枚ずつ買込みその日に備えました。ところが当日はあいにく朝から天候に恵まれず雲が厚く期待していた観測はできそうにありません。

晴れの受賞 心からお祝い申し上げます

黄綬褒章



羽月 信雄
(有)三恭建設

国土交通大臣表彰



千原 弘
千原建設(株)

社団法人全国中小建設業協会会長表彰



諏訪園 隆
坂本建設(株)



田頭 講治
株式会社田頭建設

今年春、みどりの日の黄綬褒章にはからずもその栄に浴する事になりました。五月十八日建設大臣より国土交通省で伝達され、緑に囲まれた広大な入母屋作りの泉屋（春秋の間）で待つことしばし自分としては、膝の痛みにこれはどうかと思っている時に天皇陛下のお言葉にいただきました。陛下は受賞者の周囲を歩き始められ、杖を持った方、人命救助をした若い青年、車椅子に乗った方々に「すすす立ち止まらず声をかけ通り過ぎられませんでした。

その後記念撮影の後新年参賀の時に天皇一家がお出ましになる長和殿のお立ち台を見ながらバスに乗り板下門を通過して再度国土交通省へ行き解散しました。

◆ ◆ ◆
この度は、建築協会の御推薦に依り身分不相応ではございますが平成二十一年度国土交通大臣表彰を受賞させて頂き感謝の気持ちを込めて、心から御礼申し上げます。今年度の建築協会御推薦に依り身分不相応ではございますが平成二十一年度国土交通大臣表彰を受賞させて頂き感謝の気持ちを込めて、心から御礼申し上げます。

(千原 弘)